

# 福岡県久留米市の商業環境と住民の買物行動

栗島英明・齋藤幸生・濱里正史

キーワード：商業環境，買物行動，商店街，久留米市

## I はじめに

本稿は、久留米市における商業環境を明らかにするとともに、所与の環境下で住民がどのような買物行動を行っているか明らかにすることを目的とする。

買物行動に関する研究は、欧米のみならずわが国においても多くの蓄積がなされている<sup>1)</sup>。しかしながら従来の研究においては、事例地区が2、3ヶ所という場合が多く、対象地域内部のミクロな商業環境の差異が買物行動に影響を与えるのか否か、与えらばどのような影響を与えているのか、というところまで検討しきれていない。そこで本稿では、中心部1地区と周辺部10地区の計11地区を事例地区として取り上げ、地域内部のミクロな商業環境の差異が、住民の買物行動にどのような影響を与えているかを検証する。

福岡県久留米市は古くから交通の要衝であり、藩政期においては久留米藩の城下町として、明治期になると筑後地域の政治・経済の中心都市として成長し、大正期から第2次世界大戦後の高度経済成長期にかけては、商工業都市として発展した<sup>2)</sup>。

今日、久留米市内には南北にJR九州（以下、JR）の鹿児島本線、西日本鉄道（以下、西鉄）の大牟田線、東西にJR久大本線、西鉄甘木線という計4本の鉄道が走り、幹線道路として九州自動車道、国道3号線が南北に走っている（第1図）。また国道3号線からは、日田方面に国道210号線が、大牟田方面に国道209号線がそれぞれ分岐し、

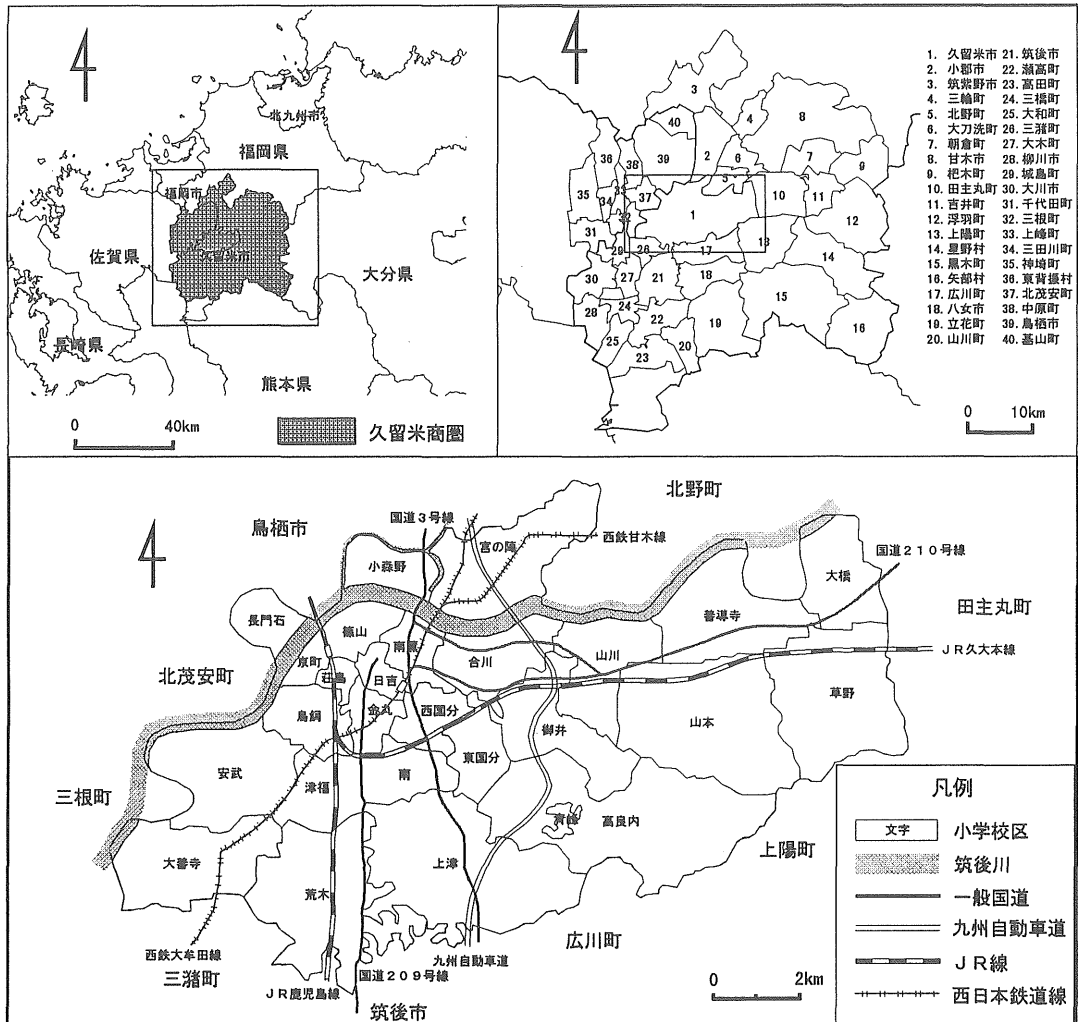
その他にも、佐賀方面に向かう国道264号線、甘木方面に通じる国道322号線が市内を走っており、久留米市は現在でも、交通の結節点という性格を有している。このように高い交通利便性を有する久留米市は、筑後地域における商工業の中核都市として発展してきた。しかし、近年では基幹産業であるゴム工業が不振であり、そのため商業都市としての性格を強めつつある。このことは、久留米市の1次～3次商圈である久留米広域商圈が、ここ数年縮小しつつあるとされるものの、福岡県南部および佐賀県東部の40市町村に及んでいることから明らかである<sup>3)</sup>。

## II 久留米市の商業環境

久留米市の商業環境を概観すると、西鉄久留米駅周辺に位置する中心商業地、市内周辺地区に展開する周辺商業地、久留米市内および久留米市周辺市町村に点在する大型店が、久留米市の商業環境を構成する重要な要素であるといえる。そこで本章においては、中心商業地、周辺商業地、大型店の順に店舗、業種構成、立地展開などを検討することにより、久留米市の商業環境を明らかにする。

### II-1 中心商業地

久留米市中心部には、岩田屋や井筒屋、リバールといった百貨店のほか、ダイエーやベスト電器などの大型店が集積するほか、西鉄久留米駅から西に向かって8つの商店街が連続して展開し、全

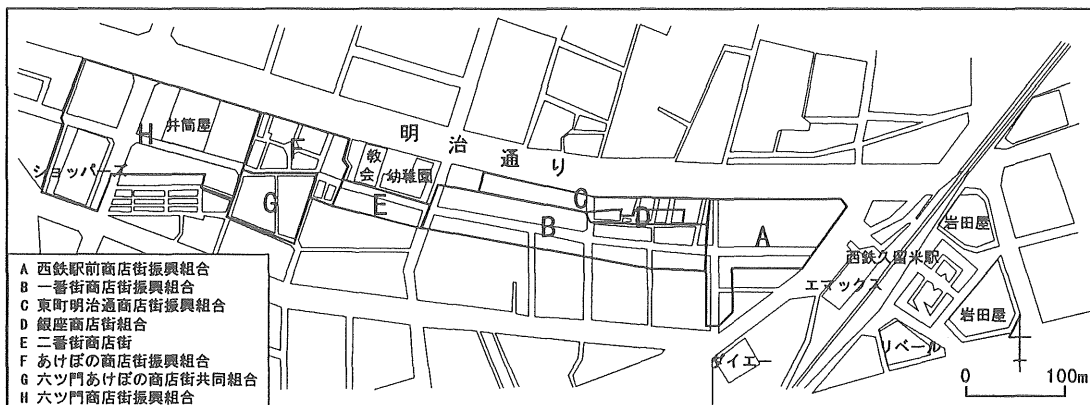


第1図 研究対象地域

体として1つの中心商業地を形成している(第2図)。ただし、業種構成についてみると、この8つの商店街はそれぞれ異なる性格を有している(第1表)。一番街商店街と二番街商店街は、買回品をあつかう店舗が圧倒的に多く、飲食・サービス業はある程度存在するが、最寄品店は皆無である。一方、駅の西口に近接する西鉄駅前商店街と銀座商店街は、同じく最寄品が皆無であるものの、買回品より飲食・サービス業の方が多い。これに対し、あけぼの商店街と六ツ門あけぼの商店街では、最寄品店の集積量が多い<sup>4)</sup>。また、東町明治通商店街と六ツ門商店街は、買回品、飲食・

サービス業ともにある程度の集積があり、最寄品店も比較的多い。

8つの商店街で合計した値をみると、買回品店が169店舗(56.9%)と過半数を占め、飲食・サービス業85店舗(28.6%)、最寄品店33店舗(11.1%)<sup>5)</sup>となっている。このほか、百貨店や大規模スーパーなどの存在を考えあわせると、久留米市の中心商業地は、久留米市の商業の中心であるだけでなく、久留米広域商圏住民の買物行動の中心として極めて高い商業機能を有しているといえる。



第2図 久留米市中心商業地と商店街（1998年）

（「久留米広域商圏への大型店出店影響調査報告書」および現地調査により作成）

第1表 久留米市における中心商業地の業種構成（1995年）

単位：件（%）

	買回品	最寄品	飲食・サービス業	その他	合計
西鉄駅前商店街	6 (33.3)	0 (0.0)	12 (66.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
一番街商店街	71 (77.2)	3 (3.2)	16 (17.4)	2 (2.2)	92 (100.0)
東町明治通商店街	13 (50.0)	2 (7.7)	10 (38.5)	1 (3.8)	26 (100.0)
銀座商店街	6 (33.3)	0 (0.0)	12 (66.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
二番街商店街	14 (70.0)	0 (0.0)	2 (10.0)	4 (20.0)	20 (100.0)
あげぼの商店街	24 (42.1)	15 (26.3)	17 (29.8)	1 (1.8)	57 (100.0)
六ツ門あげぼの商店街	17 (63.0)	8 (29.6)	1 (7.4)	1 (3.7)	27 (100.0)
六ツ門商店街	18 (46.2)	5 (12.8)	15 (38.5)	1 (2.6)	39 (100.0)
合計	169 (56.9)	33 (11.1)	85 (28.6)	10 (3.4)	297 (100.0)

（「久留米広域商圏への大型店出店影響調査報告書（資料編）」より作成）

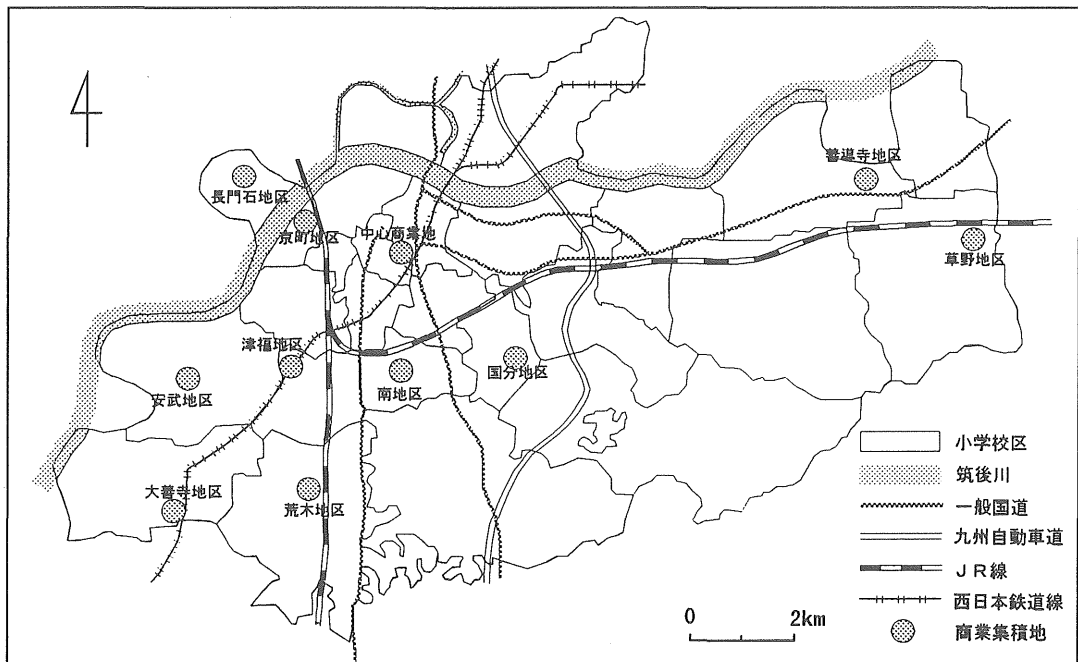
## II-2 周辺商業地

久留米市内には前述の中心商業地のほかに、いくつかの商業集積がみられる（第3図）。以下においては、各周辺商業地について概観する<sup>6)</sup>。

西鉄久留米駅周辺の市中心部から南東に約2kmに位置する国分地区には、飲食・サービス業、飲・食料品店を中心とした商業地が形成されている（第2表）。商業集積は、国分町から隣接する諏訪野町を通過して市の中心部へと抜ける、県道藤山-国分-一丁田線沿いと陸上自衛隊第4特科連隊駐屯地正門から県道に合流する道路沿いにみられる。国分町の商業地域が含まれる東国分地区は、平成6年において商店数216店、年間販売額2,759千万円であった<sup>7)</sup>。また昭和57年からの傾向をみ

ると、店舗数、販売額ともに平成3年までは微量ながら増加傾向にあったが、それ以降、年間販売額は減少し、減少率は市全体平均と比べても大きい。また、商業集積の中心である国分バス停より西側の市中心部方面は活況を呈しているが、東側、つまり自衛隊駐屯地方面は店舗閉鎖などが相次ぎ、住宅に建てかえられるなどして、次第に商業地としての性格を失いつつある。

西鉄大牟田線津福駅がある津福地区は、南北に走る県道久留米-柳川線と東西に走る安武-国分線が交差している、久留米西部の交通結節点であり、市営住宅団地の建設とともに商業集積が進行した。業種でみると、飲食・サービス業が多いが、近年はスーパーやコンビニエンスストアの出店



第3図 久留米市の中心商業地と周辺商店街（1998年）

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」および現地調査により作成）

第2表 久留米市における周辺商店街の業種構成（1997年）

単位：件（％）

	各種商品	衣服・最寄品	飲・食料品	飲食・サービス業	家・娯・仕・その他	合計
国分地区	1 (1.0)	8 (8.2)	26 (26.5)	39 (39.8)	24 (24.5)	98 (100.0)
津福地区	0 (0.0)	6 (2.5)	7 (14.6)	29 (60.4)	6 (12.5)	48 (100.0)
善導寺地区	1 (2.2)	4 (8.7)	12 (26.1)	15 (32.6)	15 (30.4)	46 (100.0)
大善寺地区	0 (0.0)	4 (11.8)	3 (8.8)	18 (52.9)	9 (26.5)	34 (100.0)
荒木地区	0 (0.0)	8 (17.0)	17 (36.2)	12 (25.5)	10 (21.3)	47 (100.0)
南地区	2 (2.0)	7 (6.9)	32 (31.4)	39 (38.2)	22 (21.6)	102 (100.0)
長門石地区	2 (2.8)	5 (6.9)	15 (20.8)	32 (44.4)	18 (25.0)	72 (100.0)
安武地区	0 (0.0)	1 (4.5)	5 (22.7)	10 (45.5)	6 (27.3)	22 (100.0)
草野地区	0 (0.0)	2 (10.0)	6 (30.0)	7 (35.0)	5 (25.0)	20 (100.0)
京町地区	1 (2.1)	2 (4.3)	11 (23.4)	20 (42.6)	13 (27.7)	47 (100.0)

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

も多い。

久留米市東部の生活拠点である善導寺地区では、国道210号線沿いと北へ抜ける道路沿いに商業集積がみられる。業種は比較的多種多様であり、近年では国道210号沿いに、ロードサイド型の第二種大型店の立地が進展している。

久留米市南西部に位置する大善寺地区には、西

鉄大牟田線大善寺駅があり、また久留米市と柳川市を結ぶ県道久留米－柳川線が南北に走っている。商業集積は県道沿いにみられる。また、周辺地域（三潞郡）の生活拠点と位置づけられており、古くは歓楽街であった。業種としては飲食・サービス業が多いが、店舗の老朽化が進行している。現在、大善寺駅東側の区画整理事業が進行中であ

り、住宅開発や共同店舗の出店も検討されている。

久留米市中心部から5kmほど南に位置する荒木地区には、JR 鹿児島本線荒木駅を中心に、多様な店舗構成の商業地が形成されている。かつては陸軍第18師団の軍用品の積み出し駅であったため、商業地としての歴史は比較的古い。現在では店舗の老朽化や開店休業状態の店舗もみられる。

久留米市中心部から2kmほど南に位置する南地区は、かつての陸軍練兵場であり、戦後、市によって整備されて久留米市最大の住宅地域となった。また近年では、隣接する上津地区が「上津・藤光土地区画整理事業」によって再開発されて世帯数も急速に伸びており、更なる発展が見込まれている商業地である。新たに建設された再開発道路沿いに、ロードサイド型の第二種大型店が立地する一方、旧来からの小売店の店舗閉鎖がみられる。

筑後川を挟んで久留米市中心部の対岸に位置する長門石地区は、市営住宅団地や高層マンションが立ち並ぶ住宅地域である。もとは農村地帯であったが、久留米市の西部地区開発の進展に伴う、昭和49年の長門石大橋の開通によって市中心部とのアクセスが容易となり、住宅地として急速に発展した。そのため、商業地としての歴史は比較的浅い。また地区の性格上、近隣市町村を商圏に含んでいる。業種は飲食・サービス業が比較的多い。

久留米市西部に位置する安武地区には、南北に県道久留米―柳川線が縦貫し、西鉄大牟田線安武駅がある。水田が広がる農村地帯であり、市街化調整区域に指定されているために商業施設の集積度は低い。業種をみると飲食・サービス業が多い。

JR 鹿児島本線久留米駅の西側から筑後川にかけて位置する京町地区においては、地区内を通る県道久留米―城島―大川線沿線が商業地域に指定されているが、周辺は大手ゴムメーカーの工場を中心とした工場地区であり、川沿いは住宅地区となっている。各業種の店舗が混在しているが、飲食・サービス業が相対的に多い。市中心部との近接性が高く便利なため、購買者が中心商業地へ流出することが問題となっている。

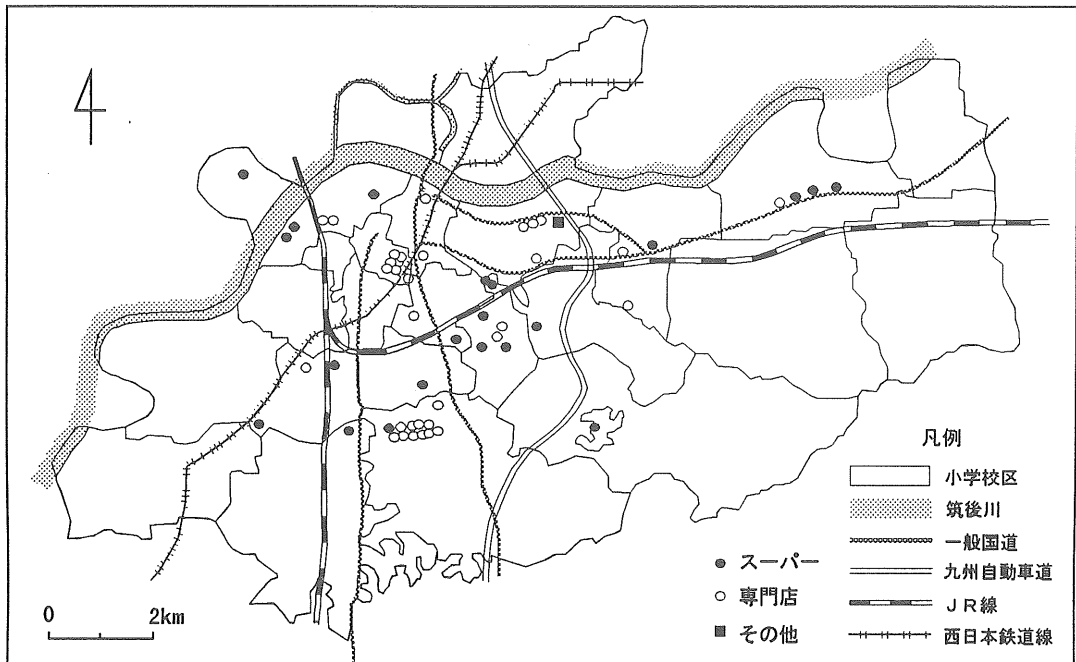
### II-3 大型店

モータリゼーションの進展と都市中心部の地価の高騰により、旧市街の中心商業地が衰退し、郊外にロードサイド型の大型店が立地することで商業集積が分散化されることはよく知られている。久留米市および久留米広域商圏においてもその傾向は顕著である。

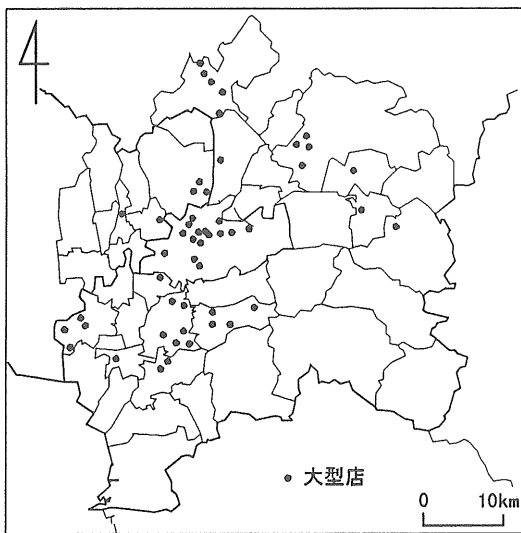
久留米市内におけるロードサイド型大型店は、主として国道210号バイパス沿いと上津・藤光地区（以下、上津地区）の再開発道路沿いにみられる（第4図）。主な業種はホームセンター、電器専門店、洋服専門店、食品スーパーなどであり、これらはほとんどが第二種大型店である。これに対し、第一種大型店は鉄道沿線に多く立地している。

また久留米市周辺市町村には、佐賀県鳥栖市の「鳥栖シティーモール」、ジョイフルタウン鳥栖、同県三養基郡上峰町の「上峰サティ」、福岡県八女市の「ゆめタウン八女」、同県大川市の「ゆめタウン大川」など、店舗面積1万m<sup>2</sup>を超えるような大型ショッピングセンターをはじめとする第一種大型店が多数立地している（第5図）。このような周辺市町村に立地する大型店の及ぼす影響は大きく、久留米市の商業的地位は、これらの大型店によって次第に低下していくと予測されている。

以上のことから、本章は以下のように概括することができる。久留米市の商業環境は、中心商業地、周辺商業地、久留米市内の大型店、久留米市周辺の大型店という4つの要素から構成される。中心商業地は買回品を中心とする高次の商業地であり、周辺商業地は最寄品を基本とする低次の商業地である。ただし、周辺商業地は規模や業種構成の点からみて多様である。大型店はその性格上、買回品から最寄品まで取扱品目は多種多様であり、店舗間の格差も大きい。したがって、久留米市内の各地区における商業環境は、中心商業地や百貨店、大規模ショッピングセンターなどの第一種大型店からの距離や最寄りの周辺商業地、第二種大型店の充実度により大きく異なる。このこと



第4図 久留米市内における第一種および第二種大型店の立地 (1998年)  
 (久留米市商工部商業振興課配付資料および現地調査により作成)



第5図 久留米商圏における第一種大型店の立地 (1998年)  
 (久留米市商工部商業振興課配付資料より作成)

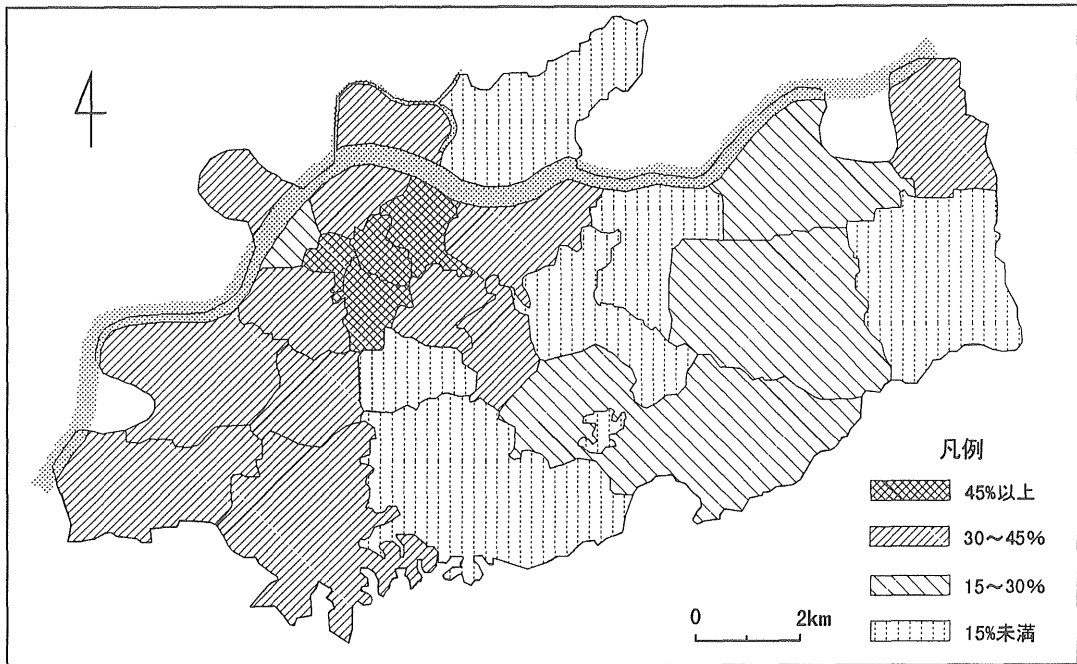
は、以降で論じる住民の買物行動に少なからず影響を与えるものと予測される。

### Ⅲ 中心商業地への依存度

本章では、久留米市の各地区の住民が、買物行動においてどの程度中心商業地に依存しているかを明らかにする。そのために、各地区の住民が最寄品および買回品<sup>8)</sup>を購入する際に、どの程度の割合で中心商業地を利用しているかという値、すなわち依存度を集計する<sup>9)</sup>。

久留米市全体における中心商業地への依存度は、最寄品31%、買回品73%であり、最寄品に比べて買回品ではるかに高い依存度を示している。これは第Ⅱ章で述べたように、中心商業地が買回品店を中心に構成されている一方、周辺商業地において、ある程度最寄品店が集積しているためと考えられる。

最寄品の中心商業地への依存度を地区別にみると(第6図)、莊島地区75%、南薫地区64.1%、日吉地区54.5%、金丸地区53.5%など、久留米市西部では高い依存度を示しているのに対し、東部では西部に比して依存度が低い。これは中心商業



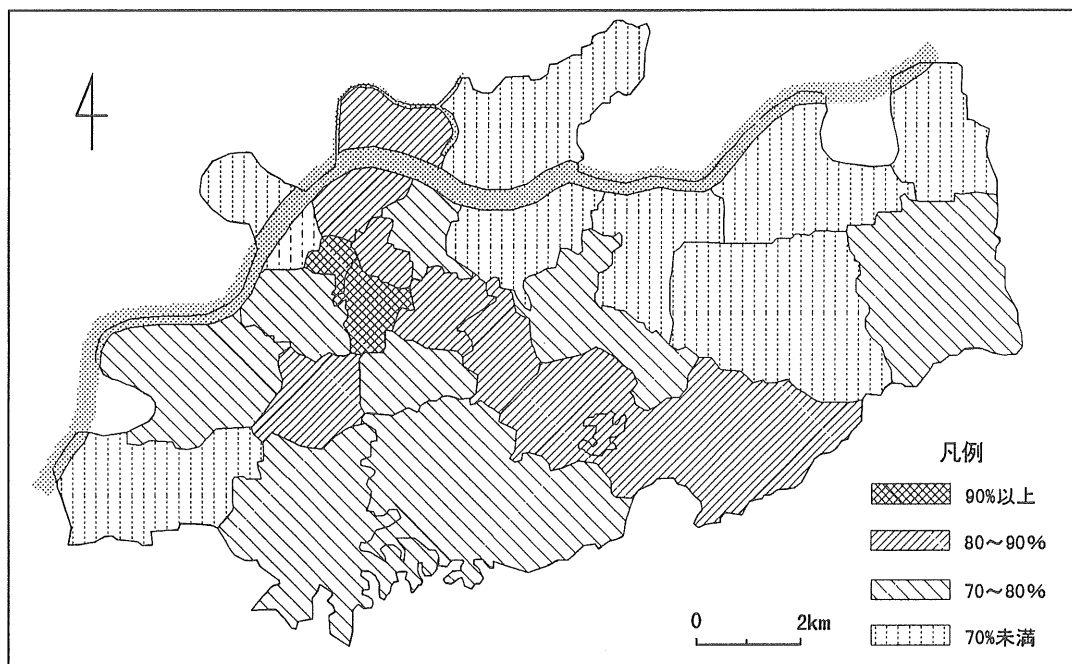
第6図 久留米市内における最寄品の中心商業地への依存度（1995年）  
 （「久留米広域商圏への大型店出店影響調査報告書」より作成）

地が、久留米市西部の日吉地区と南薫地区にまたがる地域に存在することが原因と考えられる。

次に、買回品の中心商業地への依存度を地区別にみると（第7図）、荘島地区（95.6%）と金丸地区（92.3%）が最も高い値を示し、日吉地区、西国分地区、篠山地区、東国分地区、津福地区、小森野地区などで80%を超える値を示す。これに対し大橋地区、善導寺地区、山川地区、長門石地区、大善寺校などの、久留米市縁辺地域では70%に満たない。これは、中心商業地への実際の距離だけでなく、交通手段が影響しているためと考えられる。中心商業地を訪れる人々の交通手段をみると、全体の約30%が自家用車を利用しているものの、バスと西鉄といった公共交通機関を合計すると約40%、比較的近隣から来ていると思われる徒歩と自転車の合計が約25%となっている。したがって、バス交通の発達している東国分地区と小森野地区、中心商業地近隣の日吉、南薫、荘島、金丸、西国分の各地区、西鉄沿線の津福地区の依存度が高いのに対し、自家用車でのアクセスが主

となる縁辺地域では、商業地の駐車場不足も手伝って、依存度が低くなっていると推察される。自動車を利用して買物行動をする場合、市中心部の商店街に比べ、広大な駐車場を確保している、郊外型もしくはロードサイド型の大型店のほうが利便性はよい。現在、久留米市郊外の国道210号線や上津地区の再開発道路の沿線には、いくつかのロードサイド型の大型店が、縁辺部からのアクセスが容易な久留米市の周辺市町村には、大型ショッピングモールが立地し活況を呈している。その結果、自動車でのアクセスが不便な中心商業地にまで買物に行く必要がなくなってきたことが、先述した空間パターンを成す大きな要因として考えられる。

最寄品と買回品の依存度の空間パターンを比較すると、最寄品の依存度が低かった青峰地区、高良内地区が買回品では極めて高い数値を示している点が注目される。久留米市の郊外ニュータウンとして開発された青峰地区、高良台地区は、市内中心部やその他の市内地域から隔絶されており、



第7図 久留米市内における買回品の中心商業地への依存度（1995年）  
 （「久留米広域商圏への大型店出店影響調査報告書」より作成）

中心部へのアクセス方法も自動車とバス以外にない。そのため、地区内の「みどりショッピングセンター」において購入可能な最寄品は、中心商業地への依存度が非常に低く、自地区内での購入が困難な買回品は、必然的に中心商業地へ高い依存度を示すのではないかと考えられる。

#### IV 久留米市における住民の買物行動

##### IV-1 久留米市中心部住民の買物行動

本節では、久留米市中心部住民の買物行動について報告する。ただし、以下においては中心部を日吉地区、南薫地区、荘島地区、篠山地区の全4地区からなるものとし、資料として久留米市（1996）<sup>10)</sup>および住民への聞き取り調査結果を用いる。

第3表は、中心部住民の買物行動を示したものである。これをよると、全体的に市中心部への依存度が高いことがわかる。具体的にみると洋服(外出用)では、87%が中心部での購入となっているが、主な購入先は岩田屋や井筒屋といった百貨店

と中心商店街である。シャツ・下着は83%が中心部で購入されるが、ほとんどがダイエーなどの総合スーパーで購入されている。生鮮食料品は、87%が中心部で購入され、その購入先はダイエーなどの総合スーパーや中心商店街、近所の食品スーパーである。靴・履物は、90%が中心部で購入されている。主な購入先は、岩田屋や井筒屋などの百貨店、中心商店街、ダイエーなどの総合スーパーである。葉・化粧品は、87%が中心部で購入されるが、主な購入先は近所の小売店である。贈答品は、80%が中心部で購入され、その購入先はほとんどが岩田屋や井筒屋のような百貨店である。このように、同じ中心部で購入される商品であっても、その種類によって購入先の店舗形態は異なっている。これに対し家電製品、家具・インテリア、スポーツ・レジャー用品、日用雑貨では、市内他地区への買物行動が15%を超えている。主な購入先は、国道210号バイパス沿いのロードサイド型大型店である。また、呉服・反物、洋服(外出用)、家具・インテリア、貴金属・装身具、贈



第3表 久留米市中心部住民の買物行動

	久留米市内		久留米市外		不明
	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	60	0	0	7	33
洋服（外出用）	87	0	0	7	6
洋服（普段着）	77	3	3	3	14
シャツ・下着	83	0	0	0	17
寝具	67	0	0	0	33
生鮮食料品	87	3	0	0	10
その他の食料品	77	3	0	0	20
家電製品	64	17	0	3	16
家具・インテリア	33	23	0	7	37
時計・眼鏡	64	10	0	3	23
玩具	33	13	0	3	51
スポーツ・レジャー用品	20	23	3	3	51
書籍・文具	73	3	0	3	21
靴・履物	90	0	7	0	3
かばん・バッグ	70	3	0	0	27
貴金属・装身具	53	0	0	7	40
薬・化粧品	87	0	0	0	13
日用雑貨	67	20	0	0	13
陶磁器・ガラス器	47	3	0	3	47
贈答品	80	0	0	7	13

（「久留米広域商圏への大型店出店影響調査報告書（資料編）」より作成）

第4表 国分地区住民の買物行動

	久留米市内			久留米市外		不明
	国分地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	1	41	17	1	0	40
洋服（外出用）	2	95	1	0	2	0
洋服（普段着）	12	81	3	1	3	0
シャツ・下着	16	60	2	2	20	0
寝具	8	70	8	1	13	0
生鮮食料品	99	1	0	0	0	0
その他の食料品	97	2	1	0	0	0
家電製品	57	35	7	1	0	0
家具・インテリア	8	81	6	5	0	0
時計・眼鏡	5	93	2	0	0	0
玩具	3	37	2	9	0	49
スポーツ・レジャー用品	1	55	3	12	3	26
書籍・文具	75	21	0	0	1	3
靴・履物	19	76	3	1	0	1
かばん・バッグ	1	97	0	1	1	0
貴金属・装身具	1	85	0	0	1	13
薬・化粧品	77	13	1	1	8	0
日用雑貨	98	2	0	0	0	0
陶磁器・ガラス器	17	80	1	0	2	0
贈答品	0	99	0	0	1	0

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

答品といった高級品は、福岡市での買物行動もみられる<sup>11)</sup>。

以上のように、中心部の住民はほとんどの買物を自地区である中心部で行っているが、ホームセンターなどのロードサイド店で購入できる低次買回品は市内他地区へ、高次買回品は福岡市へ買物に行く傾向がみられる。

#### Ⅳ-2 久留米市周辺部住民の買物行動

本節では、久留米市周辺部の住民の買物行動について報告する。周辺部として国分地区、津福地区、善導寺地区、大善寺地区、荒地地区、南地区、長門石地区、安武地区、草野地区、京町地区の全10地区を選定し、資料として久留米市（1997）および住民への聞き取り調査結果を用いる<sup>12)</sup>。

国分地区住民の買物行動（第4表）をみると、洋服（外出用、普段着）、家具・インテリア、靴・

履物、かばん・バッグ、貴金属・装身具、陶磁器・ガラス器、贈答品といった買回品の中心部への依存度が非常に高いことがわかる。これは、国分地区が中心部に近接しており、バスによってアクセスが容易であることが要因と考えられる。これに対し、生鮮品を含む食料品の自地区内への依存度が高いが、これは地区内に食品スーパーがあることが原因と考えられる。また、薬・化粧品、日用雑貨といった、その他の最寄品も地区内に依存していることがわかる。その他、家電製品や書籍・文具といった品物も地区内で購入する率が高い。これは、地区内に大型専門店があるためと考えられる。我々が実施した聞き取り調査では、生鮮品をはじめとする食料品は自地区内の食品スーパーに、外出用の洋服は中心部に、玩具は上津地区の再開発道路のロードサイド店に買物に出かけるという回答が多く得られた。

津福地区住民の買物行動（第5表）をみると、津福地区でも生鮮品をはじめとした食料品、薬・化粧品、日用雑貨といった最寄品の自地区への依存度が高い。これは、地区内に食品スーパーおよびホームセンターが立地していることが要因と考えられる。聞き取り調査でも、ホームセンターに薬、日用雑貨の買物に行くという回答が得られている。一方、他地区と同様に買回品の中心部への依存度は高いが、地区内に西鉄大牟田線津福駅があって福岡市へのアクセスが比較的容易なことから、呉服・反物、貴金属・装身具、陶磁器・ガラス器といった高次買回品では福岡市への依存度が比較的高い傾向にある。また、家電製品、家具・インテリアの購入は市内他地区、玩具、スポーツ・レジャー用品の購入は、周辺市町村へと出かけることが多い。聞き取り調査では、家電製品は柳川県道沿いや西鉄久留米駅西口の専門店に、玩具に関しては西鉄久留米駅東口の専門店に行くという

回答が得られている。

善導寺地区住民の買物行動（第6表）をみると、生鮮食料品を中心とした食料品の自地区への依存度は大きい。また、隣接地区の国道210号線沿いにロードサイド型のホームセンターや専門店が立地している関係で、すべての商品で市内他地区への依存度が高くなっている。中心部への依存度は、贈答品を除いては60%を超えるものがなく、多くの品物で60%を超えている国分、津福地区と大きく異なる。

久留米市南西部に位置する大善寺地区住民の買物行動（第7表）をみると、自地区への依存度で60%を超えるものがないことが注目される。また、すべての品物で市内他地区への依存度が高い。特に書籍・文具、靴・履物、日用雑貨、陶磁器・ガラス器で60%を超える高い依存度を示している。中心部への距離が遠いためか、市中心部への依存

第5表 津福地区住民の買物行動

(%)

	久留米市内			久留米市外		不明
	津福地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	3	39	4	7	23	24
洋服（外出用）	4	78	3	7	8	0
洋服（普段着）	22	56	6	10	6	0
シャツ・下着	23	49	7	10	11	0
寝具	20	37	6	7	15	15
生鮮食料品	93	1	1	3	1	1
その他の食料品	91	1	2	2	4	0
家電製品	27	34	25	9	1	4
家具・インテリア	4	41	20	15	8	12
時計・眼鏡	15	50	10	7	9	9
玩具	9	34	6	22	0	71
スポーツ・レジャー用品	7	41	10	14	8	20
書籍・文具	27	42	14	3	4	10
靴・履物	15	62	12	3	6	2
かばん・バッグ	6	72	8	4	6	4
貴金属・装身具	2	58	5	2	15	18
薬・化粧品	81	11	0	1	5	2
日用雑貨	85	9	2	2	2	0
陶磁器・ガラス器	17	52	4	7	10	10
贈答品	4	83	2	6	2	3

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

第6表 善導寺地区住民の買物行動

(%)

	久留米市内			久留米市外		不明
	善導寺地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	12	18	17	13	20	20
洋服（外出用）	8	59	29	2	2	0
洋服（普段着）	19	39	38	2	2	0
シャツ・下着	27	22	40	1	10	0
寝具	15	20	54	4	7	0
生鮮食料品	83	1	16	0	0	0
その他の食料品	87	1	12	0	0	0
家電製品	17	27	55	1	0	0
家具・インテリア	3	21	74	0	1	1
時計・眼鏡	5	45	49	0	1	0
玩具	6	32	51	1	0	10
スポーツ・レジャー用品	5	23	59	1	2	10
書籍・文具	30	20	44	0	0	6
靴・履物	27	44	28	0	1	0
かばん・バッグ	12	41	45	0	2	0
貴金属・装身具	2	59	31	1	4	3
薬・化粧品	58	17	24	0	1	0
日用雑貨	63	13	24	0	0	0
陶磁器・ガラス器	22	39	36	0	1	2
贈答品	9	68	23	0	0	1

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

度は他地区と比較すると相対的に低い。外出用の洋服と贈答品の依存度が60%を超えるのみである。

久留米市の最南端に位置する荒木地区住民の買物行動（第8表）をみると、生鮮食料品をはじめとする食料品の自地区依存度は高い。これに対し外出用の洋服、シャツ・下着、時計・眼鏡、靴・履物、かばん・バッグ、贈答品は中心部への依存度が高い。また、上津地区のロードサイド店が近いことから、市内他地区への依存度が20～30%となる品目も多い。

南地区住民の買物行動（第9表）をみると、生鮮食料品を含む食料品、薬・化粧品、日用雑貨の自地区への依存度が高い。また、書籍・文具の自地区への依存度も81%と高い値を示している。これは、南地区が久留米市の文京地区的性格を有しており、書籍・文具を取り扱う店舗が集積しているためである。これに対し、洋服（外出用、普段

着）、家具・インテリア、時計・眼鏡、靴・履物、かばん・バッグ、陶磁器・ガラス器、贈答品の市中心部への依存度は80%を超える値を示している。これは、南地区が市中心部に比較的近く、バスによってアクセスが容易であるためと推測できる。

長門石地区住民の買物行動（第10表）をみると、生鮮品をはじめとする食料品と薬・化粧品の自地区依存度が70%を超えている。これは、自地区内に食品スーパーを有していることが原因である。しかし一方で、その他の品物では中心部、市内他地区、周辺市町村の三方向への依存度が拮抗している。この理由として、長門石橋を渡れば、筑後川対岸の久留米市中心部や国道210号バイパス沿いのロードサイド店に比較的容易に行くことができること、長門石地区に隣接する佐賀県鳥栖市、同県三養基郡に大型のショッピングセンターがあり、自動車を利用すれば容易に大量の品物を安く

第7表 大善寺地区住民の買物行動

	（%）					
	久留米市内			久留米市外		不明
	大善寺地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	5	26	23	1	1	44
洋服（外出用）	4	67	23	4	1	1
洋服（普段着）	9	47	38	5	0	1
シャツ・下着	9	43	40	5	3	0
寝具	8	35	45	7	0	5
生鮮食料品	55	1	43	1	0	0
その他の食料品	56	1	42	1	0	0
家電製品	20	24	50	5	1	0
家具・インテリア	1	18	59	7	0	15
時計・眼鏡	0	41	47	3	0	9
玩具	1	7	28	7	0	57
スポーツ・レジャー用品	2	15	47	5	0	31
書籍・文具	28	7	62	2	0	1
靴・履物	9	19	68	1	0	3
かばん・バッグ	5	27	52	0	1	15
貴金属・装身具	1	27	37	0	2	33
薬・化粧品	39	12	43	1	4	1
日用雑貨	22	3	71	2	0	2
陶磁器・ガラス器	7	13	69	0	0	11
贈答品	2	74	21	2	0	1

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

第8表 荒木地区住民の買物行動

	（%）					
	久留米市内			久留米市外		不明
	荒木地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	3	55	7	4	10	21
洋服（外出用）	5	74	5	5	11	0
洋服（普段着）	21	58	10	7	2	2
シャツ・下着	9	63	13	4	11	0
寝具	30	25	17	5	10	13
生鮮食料品	79	5	9	1	4	2
その他の食料品	74	7	10	3	5	1
家電製品	23	32	35	5	3	2
家具・インテリア	5	33	23	20	6	13
時計・眼鏡	6	60	21	5	4	4
玩具	7	31	19	8	3	32
スポーツ・レジャー用品	3	44	16	4	3	30
書籍・文具	16	33	32	6	2	11
靴・履物	6	63	26	3	2	0
かばん・バッグ	3	70	17	3	4	3
貴金属・装身具	3	56	9	2	8	22
薬・化粧品	49	17	18	5	9	2
日用雑貨	51	17	25	3	1	3
陶磁器・ガラス器	14	49	13	2	9	13
贈答品	3	72	15	4	2	4

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

第9表 南地区住民の買物行動

(%)

	久留米市内			久留米市外		不明
	南地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	0	44	16	1	4	35
洋服(外出用)	0	91	2	2	5	0
洋服(普段着)	11	81	1	2	5	0
シャツ・下着	13	78	2	1	5	1
寝具	19	71	3	1	2	4
生鮮食料品	97	3	0	0	0	0
その他の食料品	96	2	2	0	0	0
家電製品	18	64	15	3	0	0
家具・インテリア	0	89	3	8	0	0
時計・眼鏡	4	91	3	1	1	0
玩具	4	13	1	3	0	79
スポーツ・レジャー用品	4	43	4	4	0	45
書籍・文具	81	16	0	1	0	2
靴・履物	10	84	0	3	3	0
かばん・バッグ	3	91	0	3	3	0
貴金属・装身具	2	45	0	0	4	49
薬・化粧品	86	11	1	0	2	0
日用雑貨	98	1	0	0	0	1
陶磁器・ガラス器	9	82	0	0	1	8
贈答品	2	96	0	0	1	1

(「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成)

購入ができることがあげられる。

久留米市西部に位置する安武地区住民の買物行動(第11表)は、自地区への依存度がほとんどないことが特徴である。なかでも、生鮮食料品をはじめとする食料品の周辺市町村への依存度が60%を超えているほか、他の品物でも周辺市町村へ高い依存度を示している。これは、佐賀県三養基郡の大型ショッピングセンターに買物に行く住民が多いためである。さらに、洋服(外出用、普段着)、時計・眼鏡、贈答品は、中心部への依存度が70%を超えている。以上より、安武地区の買物行動は自地区内ではほとんどなされおらず、最寄品は周辺市町村に、買回品は久留米市中心部に依存していることがわかる。

久留米市街地から遠く離れ、自地区にほとんど商業施設を持たない草野地区住民の買物行動(第12表)をみると、商業環境を反映して自地区内の買物行動は、ほぼ全品目においてほとんど行わ

第10表 長門石地区住民の買物行動

(%)

	久留米市内			久留米市外		不明
	長門石地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	1	40	4	7	37	11
洋服(外出用)	3	60	4	16	17	0
洋服(普段着)	5	48	4	32	11	0
シャツ・下着	4	45	6	34	11	0
寝具	1	43	13	16	25	2
生鮮食料品	73	7	3	11	6	0
その他の食料品	73	6	3	11	7	0
家電製品	39	22	20	12	7	0
家具・インテリア	1	36	27	16	20	0
時計・眼鏡	6	50	19	15	10	0
玩具	4	34	10	39	5	8
スポーツ・レジャー用品	1	34	16	37	8	4
書籍・文具	18	35	23	20	4	0
靴・履物	1	54	11	26	8	0
かばん・バッグ	1	56	8	23	12	0
貴金属・装身具	0	57	6	14	21	2
薬・化粧品	73	10	2	4	11	0
日用雑貨	58	10	11	17	4	0
陶磁器・ガラス器	5	41	11	23	17	3
贈答品	9	59	10	16	6	0

(「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成)

れていない。草野地区においては、買物を中心部と市内他地区に依存しており、最寄品、買回品といった品物による購入先の差異もみられない。

最後に、中心部に隣接する京町地区住民の買物行動(第13表)をみると、自地区に総合スーパーを有しているにもかかわらず、中心部への依存度が高い。また、市内他地区への買物行動もいくぶん見られる。これは国道210号バイパス沿いのロードサイド店であると推測される。また、地区内にJR鹿児島本線久留米駅を有していることから、高次の買回品の福岡市への依存度が相対的に高くなっている。

#### IV-3 買物行動の類型化

前節までの結果を総括すると、前述の11地区は、住民の買物行動からみて、6類型に類型化することが可能である(第14表)。

まず、最寄品の購入先から大きく2つに分類す

第11表 安武地区住民の買物行動

	安武地区住民の買物行動 (%)					
	久留米市内			久留米市外		不明
	安武地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	1	37	3	5	23	31
洋服（外出用）	0	76	6	12	6	0
洋服（普段着）	1	75	6	15	3	0
シャツ・下着	1	56	14	21	8	0
寝具	5	52	16	16	5	6
生鮮食料品	18	7	4	62	9	0
その他の食料品	18	7	4	62	9	0
家電製品	11	36	10	39	4	0
家具・インテリア	0	34	8	44	1	13
時計・眼鏡	9	74	4	8	1	4
玩具	2	22	3	12	0	61
スポーツ・レジャー用品	0	41	8	26	0	25
書籍・文具	36	22	8	30	1	3
靴・履物	7	41	11	36	0	5
かばん・バッグ	5	46	8	30	0	11
貴金属・装身具	0	55	3	6	2	34
薬・化粧品	15	15	9	29	27	5
日用雑貨	18	16	10	55	0	1
陶磁器・ガラス器	2	29	9	43	0	17
贈答品	1	77	6	12	0	4

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

第12表 草野地区住民の買物行動

	草野地区住民の買物行動 (%)					
	久留米市内			久留米市外		不明
	草野地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	0	30	20	15	25	10
洋服（外出用）	0	34	46	13	7	0
洋服（普段着）	1	37	53	6	3	0
シャツ・下着	1	34	56	4	4	1
寝具	0	42	47	5	6	0
生鮮食料品	2	37	55	1	5	0
その他の食料品	12	34	48	2	4	0
家電製品	1	39	51	8	1	0
家具・インテリア	1	39	52	4	4	0
時計・眼鏡	1	34	60	4	1	0
玩具	0	37	47	7	2	7
スポーツ・レジャー用品	0	35	53	6	2	4
書籍・文具	0	30	64	3	1	2
靴・履物	0	36	59	5	0	0
かばん・バッグ	0	29	62	7	2	0
貴金属・装身具	0	38	42	7	11	1
薬・化粧品	19	34	44	3	0	0
日用雑貨	23	34	41	2	0	0
陶磁器・ガラス器	4	33	57	2	4	0
贈答品	0	43	52	0	3	2

（「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成）

ることができる。Ⅰ型は最寄品の購入先を自地区内に大きく依存しているタイプであり、中心部、国分地区、津福地区、善導寺地区、荒木地区、南地区、長門石地区がこれにあたる。このタイプの地区は自地区の商業環境が充実（特にスーパーマーケットが立地）しており、自地区で一通りの最寄品が購入できる。Ⅱ型は最寄品の購入先を自地区外に依存しているタイプであり、大善寺地区、安武地区、草野地区、京町地区がこれにあたる。このタイプは京町地区を除いては自地区の商業環境が充実しておらず、自地区で一通りの最寄品を購入することができない。なお、京町地区は自地区にスーパーマーケットを抱え、商業環境も充実しているが、中心地に隣接していることから、最寄品の買物行動も中心部へ向かう傾向がある。以上より、この最寄品による分類の要因は、自地区の商業環境の充実度、とりわけスーパーマーケットの立地にあると考えられる。

次に、低次の買回品の購入先から大きく4つに分類することができる。A型は低次買回品の購入先を久留米市中心地区に依存するタイプであり、国分地区、津福地区、荒木地区、南地区、安武地区、京町地区がこれに該当する。このタイプは中心部への近接性が高く、自地区とその周辺に買回品を扱う店舗がない。B型は、低次買回品の購入先を市内他地区に依存するタイプであり、善導寺地区、大善寺地区がこれにあたる。このタイプは中心部よりやや離れており、自地区の周辺に大型の専門店が立地している。C型は、低次買回品の購入先を市外に依存するタイプであり、長門石地区がこれに該当する。このタイプは市域の縁辺部に位置し、周辺市町村へのアクセスが容易である。D型は、低次買回品の購入先を市内中心部と市内他地区に依存するタイプであり、草野地区が該当する。このタイプは市内中心部、市外ともにアクセスが悪く、周辺地区にも大型専門店が立地して

いない。以上より、この低次買回品による分類の要因は、市内中心部及び市外への近接性と自地区周辺の大型専門店の立地にあると考えられる。

最寄品購入先による2分類と低次買回品購入先による4分類を複合することにより、研究対象とした11地区は、6類型に類型化することが可能である。第1類型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市中心部で購入する地区であり、中心部、国分地区、津福地区、南地区、

荒木地区が該当する。第2類型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市内の他地区で購入する地区であり、善導寺地区が該当する。第3類型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市外で購入する地区であり、長門石地区が該当する。第4類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市中心部で購入する地区であり、安武地区と京町地区が該当する。第5類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市内の他地区で購入する地区であり、大善寺地区が該当する。第6類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市の中心部および他地区で購入する地区であり、草野地区が該当する。

第13表 京町地区住民の買物行動

	(%)					不明
	久留米市内			久留米市外		
	京町地区	中心部	他地区	周辺市町村	その他	
呉服・反物	2	54	4	6	16	18
洋服(外出用)	2	80	4	3	11	0
洋服(普段着)	5	71	6	10	8	0
シャツ・下着	2	65	17	7	9	0
寝具	2	63	19	6	10	0
生鮮食料品	48	17	21	7	7	0
その他の食料品	49	19	18	5	9	0
家電製品	5	48	36	6	5	0
家具・インテリア	1	53	24	12	9	1
時計・眼鏡	1	74	16	4	4	1
玩具	1	58	16	16	6	3
スポーツ・レジャー用品	2	59	20	11	6	2
書籍・文具	3	63	23	6	4	1
靴・履物	2	65	19	7	7	0
かばん・バッグ	1	69	12	6	12	0
貴金属・装身具	1	71	10	4	12	2
薬・化粧品	13	49	19	5	14	0
日用雑貨	21	46	23	5	5	0
陶磁器・ガラス器	4	68	9	10	9	0
贈答品	0	87	4	5	4	0

(「久留米市地域商業活性化ビジョン報告書」より作成)

## V おわりに

本稿は、久留米市における商業環境を明らかにするとともに、所与の環境下で住民がどのような買物行動を行っているか明らかにすることを目的とした。結果は、以下のように要約される。

広域な商圈を有する久留米市の商業環境は、中心商業地、周辺商業地、久留米市内の大型店、久留米市周辺の大型店という4つの要素から構成される。中心商業地は買回品を中心とする高次の商業地であり、周辺商業地は最寄品を基本とする低次の商業地である。ただし、周辺商業地は規模や業種構成の点からみて多様である。大型店はその性格上、買回品から最寄品まで取扱品目は多種多様であり、店舗間の格差も大きい。したがって、久留米市内の各地区における商業環境は、中心商店街や百貨店、大規模ショッピングセンターなど

第14表 住民の買物行動からみた地区類型

分類	最寄品購入先	分類	買回品購入先	該当地区	類型名
I	自地区	A	市内中心部	中心部、国分地区、津福地区、南地区、荒木地区	第1類型
		B	市内他地区	善導寺地区	第2類型
		C	市外へ流出	長門石地区	第3類型
II	自地区外	A	市内中心部	安武地区、京町地区	第4類型
		B	市内他地区	大善寺地区	第5類型
		D	市内中心・他地区	草野地区	第6類型

の第一種大型店からの距離や最寄りの周辺商業地、第二種大型店の充実度により大きく異なる。

久留米市内の各地区から中心商業地への依存度の空間パターンは、最寄品において久留米市西部で高く、東部で低いパターンがみられた。これに対し買回品においては、久留米市中心部近隣と中心地への公共交通機関の利便性がよい地域で高く、縁辺部で低いパターンがみられた。こうした空間パターンの背景には、久留米市中心部までの距離、鉄道やバスといった公共交通機関の整備状況、地元地域の商業環境が存在すると考えられる。

最寄品購入先による分類と低次買回品購入先による分類を複合することにより、久留米市の研究対象地区は、6類型に類型化することが可能である。第1類型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市中心部で購入する地区であり、多くの地区がこれに該当する。第2類型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市内の他地区で購入する地区である。第3類

型は、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を久留米市外で購入する地区である。第4類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市中心部で購入する地区である。第5類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市内の他地区で購入する地区である。第6類型は、最寄品を主として自地区外で購入し、買回品を久留米市の中心部および他地区で購入する地区である。

以上のことから、広域な商圈を有する久留米市のような地域中心都市では、中心商業地の商業機能が充実しているため、最寄品を主として自地区内で購入し、買回品を中心部で購入するという地区が基本である。ただし例外的な地区もある程度存在し、その背景には、自地区商業地や自地区周辺の大型専門店の充実度、中心商業地や周辺市町村に立地する大型店への近接性が要因として存在すると結論づけられる。

久留米大学の浅見良露先生には現地調査に際して直接ご指導いただき、久留米市商業振興課の水島秀雄氏には貴重な資料を提供していただきました。また聞き取り調査に際しましては、久留米市民の皆様には貴重なお時間を割いていただきました。以上、記して感謝申し上げます。

#### 【注および参考文献】

- 1) 買物行動については、生田 (1991) に詳しい。  
生田真人 (1991) : 『大都市消費者行動論—消費者は発達する—』, 古今書院, 194p.
- 2) 浅見良露 (1997) : 城下町から筑紫平野の中心都市に 久留米市. 平岡昭利編 : 『九州 地図で読む百年』, 古今書院, 17-24.
- 3) 久留米市行政管理部総務課 (1996) : 『久留米市の商業 平成6年商業統計調査結果』, 久留米市行政管理部総務課, 81p.
- 4) ただし両者は、飲食・サービス業の構成比が大きく異なり (あけぼの商店街29.8%に対し六ツ門あけぼの商店街3.7%), 買回品も若干異なる (あけぼの商店街42.1%に対し六ツ門あけぼの商店街63.0%) .
- 5) 最寄品店は、あけぼの商店街、六ツ門あけぼの商店街、六ツ門商店街など中心商業地の西側に集中しており、二番街商店街より東の駅に近接した商店街では極めて少ない。
- 6) 久留米市の統計データは、そのほとんどが小学校区を集計単位としているため、以下においては小学校区を基本単位地区として論を進める。
- 7) 前掲3) .
- 8) 最寄品は生鮮食料品、その他の食料品、日用雑貨とし、買回品を呉服・反物、衣服 (外出用、普段着)、靴・履物、かばん・バッグとした。
- 9) 資料として下記のものを用いた。  
久留米市商工部商業振興課 (1997) : 『久留米市地域商業活性化ビジョン報告書』, 久留米市商工部

商業振興課，225p.

- 10) この資料では，各地区の商業地区周辺住民に，買物行動に関するアンケートを行い，4地区合わせて30人から有効回答を得ている。  
久留米市商工部（1996）：『久留米広域商圏への大型店影響調査報告書（資料編）』，久留米市商工部，244p.
- 11) 第3表から13表における久留米市外のその他とは，ほとんどの場合福岡市である。
- 12) この資料では，各地区の商業地区周辺住民に買物行動に関するアンケート調査を実施し，各地区とも100人から有効回答を得ている。  
前掲9）。